

平成 24 年度赤平市議会報告会における「議会に対する意見・要望及び回答」

番号	意 見 ・ 要 望	回 答
1	議会報告会を、なぜこの時期でこの時間帯としたのか。 高齢者の多い地域は、昼間の開催にしてもらいたい。	議会報告会の会場で実施しましたアンケートの結果を参考にし、地域の実情を考慮しながら、一人でも多くの方に参加していただけるように検討してまいります。
2	住友地区は独居高齢者が多いので、孤独死防止対策について協議してもらいたい。	詳細な実態把握を行い、今後の対策につきましては定例会の中で個々の議員が一般質問により提案してまいります。 また、住宅行政における孤独死対策につきましては、現在、進行中の「住宅マスタープラン」において、シルバーハウジングの増設や緊急通報システムの整備、部屋の間取り等、急増する独居高齢者等に見合う住環境整備の推進を図るため、計画途中での見直し、修正可能か否か等、担当課と協議してまいります。
3	赤平市議会には 2 つの常任委員会があるが、2 つの場合のメリットと 1 つにした場合のデメリットは何なのか。	2 つの常任委員会があることによるメリットとしましては、行政の業務が煩雑化しており、議会としてのチェック機能の強化が求められておりますが、より専門的にチェックすることが可能となります。 また、2 つの常任委員会を 1 つにした場合、委員会主義から本会議主義に変更することが適当であり、その場合のデメリットとしましては、議案を審議する上で効率性が悪くなり、議案審議がすべて開会中となり閉会中継続審査ができなくなることなどが考えられます。
4	かわら版の中で、意見書に対する議員個々の賛否の公表をしてもらいたい。	当市議会は、本会議における議案及び意見書案に対し、議会としての総意は公表しておりますが、議員個々の賛否の公表は行っておりません。 今後、議員個々の賛否の公表の必要性につきまして検討してまいります。

5	かわら版の中で、どのような意見書が議決されたのかわかるようにしてもらいたい。	「かわら版 7 月号」に掲載したところですが、今後も、かわら版の中に、本会議において可決された意見書を掲載してまいります。
6	市長等の反問権を導入してはどうか。	今後、議会基本条例の制定について検討していく際に、併せて検討してまいります。
7	市民の 40%が低所得者であり、病院にかかるのも大変な状況にある。 国民健康保険税の引き上げについて、議会においてどのような議論がされたのか。	これ以上の引き上げを行うことは加入者の負担が増大するため、現状維持との声もありましたが、全国的な傾向として、低所得者、高齢化率の上昇などが起因し、国の基準通りの引き上げを行わなければ、一般財源からの補てんをしても国保会計が赤字になり、また、国からの交付金などの減額が懸念されますことからやむを得ず引き上げを承認したところであります。
8	市立病院の病棟が老朽化しているが、議会としてはどのように考えているのか。	入院患者のことを考えますと、現在の病棟設備等は充分ではないことは理解しております。 これまでは、赤平市全体の財政難を改善することと同時に、病院経営健全化計画に伴い多額の不良債務を解消することが最優先であったため、病棟の改修等は後回しになっていたのが現状であります。 しかし、平成 23 年度決算において、病院会計の安定化も予想されますことから、今後は、病棟の改修等についても協議できる時期に入ると思われ、病院の今後のあり方も十分に考慮した中で、病棟の改修等の提案につきまして慎重に検討してまいります。
9	今回の報告内容は市長提案のみで議員提案がないが、赤平市議会の活性化にならないのではないか。	議員による条例等の提案は重要なことと認識しておりますが、本会議における一般質問や委員会における審議において、議員個々が行政に対して政策提言を行っておりますので、今後も、議会の活性化が図られるよう努めてまいります。

10	議会と市民が赤平市を今後どうするかという大きなテーマで意見交換し、一定方向を見出し行政に対し要望・提起してはどうか。 また、行政と議会が意見交換し、それを市民に公開し、市民の意見を取り入れるという作業をしてもらいたい。	赤平市の今後を決める大きなテーマにつきましては、議会として、より多くの市民の方の意見を取り入れるよう努めてまいります。
11	中学校 2 校を統合した場合、赤平中学校校舎を利用する予定と聞いているが、赤平中学校は廊下が狭く天井が低い等、環境が悪すぎるので検討してもらいたい。	6 月に、所管する総務文教常任委員会が赤平中学校を訪問し、校長及び教頭から教育環境の現状について伺い、視察調査してきたところです。 今後は、他市の中学校を視察調査するなどして、中学校 2 校を統合する際の教育環境のあり方について、協議・検討してまいります。
12	議会報告会の資料の説明を、わかりやすい言葉でやってもらいたい。 また、何か一つの問題について、市民から意見を聞くという場にしてはどうか。	資料の表現方法を工夫するなどして、皆さんに理解していただける議会報告会になるよう努めてまいります。
13	東日本大震災で発生したがれきの受け入れについて、議会としてはどのように考えているのか。	当市議会としては、まだ、がれきの受け入れに対する議論はされておられません。当市のごみの最終処分場は容量に余裕がなく、また、焼却施設に関しては、これから供用開始となるものであり、現段階での議論はされておられません。 しかし、当市が加入しております中・北空知廃棄物処理広域連合において、今後、受け入れに対する議論が予想されますので、情勢に変化があった場合、情報発信してまいります。
14	原子力発電について、地方議会はどのような議論・対応をしているのか。	当市議会としては、昨年の 12 月定例会におきまして、「原子力発電からの撤退と自然エネルギーへの転換を求める意見書案」を可決し、内閣総理大臣及び経済産業大臣に対して、同意見書を提出しております。